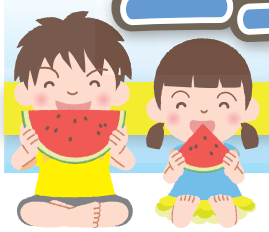
7 2026 8
三重病院
ニュースレター
news letter vol.318



01 ボツリヌス療法
02 三重病院 ヘルシーキャンプを開催しました
03 ツゥちゃんの病院探検〈検査科〉〈栄養管理室〉
04 教えて菅田先生！「手足口病・ヘルパンギーナ」
5病棟の生活のひとコマ
05 EAACI Congress2026に参加して
第26回 日本内分泌学会東海支部学術集会
06 異動のごあいさつ
2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
07 通所支援事業のひとコマ
糖尿病ワンポイントアドバイスNo.24
今月のみえツゥちゃん
08 病院からのお願い／外来診察のご案内

ボツリヌス療法

三重病院の整形外科では脳性麻痺などで小児期から体に麻痺のある患者様がたくさん来院されています。脳性麻痺は、胎児または新生児期に脳がダメージを受け、それにより上肢や下肢や体幹に力が入りにくかったり（筋力低下）、逆に力を制御する神経の働きが弱いために、余分に力が入りすぎたり（筋緊張亢進）する疾患です。麻痺のある部位、筋力低下の程度、筋緊張亢進の程度やタイプは人それぞれですが、脳性麻痺では、筋緊張亢進があるために運動や姿勢保持がうまくできない状態で成長するため、だんだん関節が硬くなって（関節拘縮）、場合によっては股関節脱臼や側弯変形などの二次的な障害につながっていくことがあります。そのため、強く入りすぎてしまう筋緊張を緩和することと、弱い筋力を改善することが脳性麻痺の治療となります。弱い筋力を強くするのはトレーニングしかありませんが、筋緊張を緩和する治療法はさまざまな方法があります。そのうちの一つがボツリヌスの注射です。ボツリヌスの注射は筋肉注射で、筋緊張を和らげたい筋肉に注射するので、効いてほしい部位に選択的に効果を発揮します。また良くも悪くも3ヶ月程度で薬剤が代謝され効果がなくなり元の状態に戻るため、導入しやすい治療法です。薬剤の効果がなくなっても、ボツリヌスの効果がある筋緊張が緩和されている状態のときにしっかりリハビリをすると、筋肉自体の柔軟性が改善したり、筋緊張が強くて使えていなかった筋肉の筋力が改善したりすることで、薬剤が代謝された後でも、筋緊張の緩んだ状態や関節可動域の改善の効果が持続することが大いにありますので、ボツリヌスの注射の後はしっかりとリハビリをすることがとても大切になります。三重病院では、外来でボツリヌスの注射をすることもありますが、大体の方は、数週間入院していただき、ボツリヌスの注射と集中的なリハビリをさせていただいています。3ヶ月以上あけるとまたボツリヌスを使用することができますので、各々の状態によりさまざまなペースで繰り返しさせてもらうことで、運動機能を維持、改善してもらっています。また、2歳から使用可能なので、幼少期から使用すると、良い姿勢で歩行する習慣が身についたり、楽な姿勢で生活することができたりするので、のちに起こってくるであろう関節拘縮や股関節脱臼や側弯などの二次障害の予防につながったり、手術の時期を遅らせたり、場合によっては回避できる可能性が出てきます。

ボツリヌス前



ボツリヌス後



ボツリヌスを実際に受けたかたからは、「こけにくくなった」「足が軽くなって動きやすくなった」「痛みが和らいだ」「フライングディスクが投げやすくなった」などと言っていただいています。ご興味のある方は是非ご相談ください。

（整形外科　多喜　祥子）